

江戸時代、オランダとの交易の窓口になった長崎の出島には、海を越えてさまざまな人がやって来ました。その中でも最もよく知られているのはシーボルトではないでしょうか。

シーボルトは1796年に現在のドイツで生まれました。大学では医学を修めましたが、植物学や博物学への関心も深かったといえます。後にオランダの軍医となってジャカルタに赴き、そこからさらに日本へ赴任することが決まります。

文政6年(1823)、オランダ商館付の医師として出島にやって来たシーボルトは、新しい交易品を探すために日本の産物、特に植物の調査を命じられていました。ところが出島の外へ出る事がほとんど許されていないために十分な調査ができません。そこで、一計を案じて長崎郊外に私塾を開くことを願います。それが有名な「鳴滝塾」で、西洋医学を教える傍ら、塾生に日本の動物のレポートを提出させることにしたのでした。同時にシーボルトは日本の著名な学者たちに手紙を送って、研究の協力を依頼しました。その一人が江戸詰の津山藩医・宇田川榕菴だったので。シーボルト来日の前年、『**苦多尼訶経**』という植物学書を刊行したばかりの榕菴は、研究への意気込みにあふれていました。シーボルトからの申し出は、榕菴にとって願ってもないことだったのでしよう。自作の植物標本や写生画を送り、植物学について教えてほしいと頼んでいます。シーボルトも榕菴の願いに応えて植物学書を貸したり、珍しい薬を送ったりと、文通はしばらく続けられました。

筆 漫 覧 博 学 洋

～ 榕菴とシーボルト～



▲シーボルトが榕菴に贈った顕微鏡
(早稲田大学図書館所蔵)

二人がようやく出会えたのは文政9年(1826)、シーボルトが將軍に拝謁するオランダ商館長に随行して江戸に来た時でした。榕菴は到着を待ちかねて、弟子を品川まで出迎えに向かわせています。そしてシーボルトの江戸滞在中は、宿所となった長崎屋に何度も通って互いに本を見せたり、植物標本を贈ったりと親密に交流をしました。榕菴の標本の出来栄えに感激したシーボルトは、長崎へ戻る時に「我が好学の友へ」との献辞を記した博物学書や植物学書、さらに顕微鏡などを贈ったのでした。

この交流は二人にとって有益なものとなり、シーボルトは帰国後、『日本植物誌』を刊行してヨーロッパに日本の植物を紹介しました。そして榕菴もこの後、『植学啓原』という日本で最初の本格的な植物学書を刊行することになるのです。

※透かしの家紋は右が眞作家、左が宇田川家のもの

3月中のひとの動き

人口	108,898人(前月比△550)
男	51,917人(同△261)
女	56,981人(同△289)
世帯	43,615世帯(同△127)
転入	620人
転出	1,160人
出生	89人
死亡	99人

(4月1日現在)

広報つやまは、環境保護のため再生紙と大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください



つ・ぶ・や・き

編集室

「勝北陶芸の里工房」には真南や関西方面から多くの人が作陶に訪れています。それは、登り窯で焼く温風や灰の対流により趣のある作品に仕上がるといふ魅力があるからです。市民料金設定もあるので行ってみませんか。(2)



快晴の中、津山城周辺のビル屋上から満開の桜を撮影。突然訪れたのに快く許して下さった皆さん、本当にありがとうございました。桜に包まれた津山城の美しさに感動!ぜひ「まちかど写真館」をご覧ください。(8)

日本の色って、その名前も色合いも本当に感性豊か。萌黄、若葉色、浅緑、青丹、常磐緑…。新緑まぶしい津山の山々も、今いろんな「緑」に彩られていてとってもきれいな。あ～、なんだかドライブに行きたくなっちゃった。(和)



つやま 広報

5月号
平成21年
2009
655号

編集・発行(毎月10日発行)
津山市総合企画部市長公室(市役所3階)
〒708-8501 岡山県津山市山北520番地
☎0868-23-2111(代) ☎0868-32-2152
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます。
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>

